富士市立高等学校 学校運営協議会	第４２回	会議要旨 （令和８年度）

開催日	会議場
令和８年１１月１６日　月曜日 開　会　　１４時００分 閉　会　　１６時３０分	富士市立高等学校　２階　会議室 オンライン併用

出席者　　＊敬称略

【学校運営協議会委員】

塩田真吾（オンライン）　木野正美　　中村孝一

橋本仁　　畑裕美　　櫻井祥行

井上美千子　加藤一広　齋藤崇　豊島実侑　委員は所用のため欠席

【市立高校教員】

青木伸介　　山本哲也　　石村俊樹　　松浦真一郎　　望月佑輔　　池ヶ谷和明

佐藤かおり　　永田裕一　　杉山秀幸

【市立高校職員】・【市教育総務課】

榎俊英　　吉野正敏　　遠藤真輝　　後藤大輝　　永尾倫子

開会

校長挨拶

・学校行事の進捗について

9 月末のオープンスクールおよび体育祭（南稜祭体育の部）が終了し、主な学校行事はほぼ完了した。今後は 1 月にマラソン大会（健脚大会）を控えている。

・「富士市立高校のあり方審議会」での議論と本校の強みについて

県のグランドデザインに基づく学校編成の議論（第 2 回まで終了）に、校長と事務長がオブザーバーとして参加している。単なる地域課題の解決にとどまらず、ディベート授業などを通じて実社会で役立つコミュニケーション能力やプレゼン能力（非認知能力・コンピテンシー）を伸ばす教育こそが他校との差別化であり、今後さらにアピールすべき本校の強みであると感じている。

・地域への周知活動（市民講座）について

市民に本校の教育や充実した施設（視聴覚教室・PR ルームなど）を知ってもらうため、8 月から本校教員を講師とした月 1 回の市民講座を開始した。一昨日開催した落語家の講演には約 60 名の市民が参加し、校舎の素晴らしさを実感してもらう良い機会となった。

・海外研修の実施とその教育的効果について

他校がコロナ禍以降に国内修学旅行へ切り替える中、本校では多民族・多言語・多宗教の文化を肌で感じる機会として、今月末からマレーシア・シンガポール・香港の 3 コースで海外研修を実施する。イングリッシュキャンプやマレーシア研修での体験がきっかけで英語への関心を深め、外国語学部への進学を志すようになった生徒もおり、海外経験の重要性を再認識している。

学校教育活動の説明

・生徒の様子と学校全体の雰囲気について

学校全体として非常に落ち着いており、豊富な学校行事に向けて運動面・文化面ともに精力的に活動し、活気ある状態が続いている。3 年生は行事と並行して各自の進路実現に向けた取り組みを進めている。

・部活動の活躍について

6 月以降、吹奏楽部の定期演奏会が大いに盛り上がったほか、夏の大会では野球部（主将が選手宣誓を担当）とサッカー部がともにベスト 8 に進出した。全国大会を目標とする両部にとっては悔しさも残る結果だが、私学が台頭する中で公立高校として大いに健闘した。

・2 学期の集中研修と学校行事の成果について

各学年・学科で特色ある集中研修を実施した。3 年総合探究科では富士市の多文化共生に関わる新プログラムを行い、2 年ビジネス探究科では英会話プログラムを取り入れるなど、その後の探究学習や海外探究に繋がる好評な取り組みとなった。また、オープンスクールでの探究発表や、スポーツ探究科が企画運営を担った南稜祭体育の部も盛況に終わった。

・地域交流事業と市民講座の展開について

各部活動等を通じた地域交流事業は地域から好評を得ており、学校と地域の双方にとって良い関係が築けている。また、本校の魅力を発信する市民講座の一環として、12 月 19 日には百人一首かるた大会の開催を予定しており、多くの来場者とさらなる学校 PR を期待している。

授業参観　学校内を見学しながら、各授業を参観していただいた。

授業参観に関する質疑応答

(意見・質問等)	・授業見学を通じた生徒の成長について 1～3 年生の授業を見学した。特に 1 年生は、6 月の前回見学時と比べて富士市立高校らしい元気で活気のある生徒へと成長している様子が見受けられた。 ・ICT を活用した個別最適な学びの取り組みについて これまで同校の授業ではグループワークなどの「協働学習」が印象的だったが、今回は ICT 機材を活用した「個別最適な学び」の授業を初めて見学した。充実した ICT 環境という財産を有効活用して授業を進める姿勢は、非常に同校らしいと感じた。 ・今後の ICT 活用の定着に向けた期待について 教員によって ICT 活用の度合いに差が出てしまうという課題も聞かれたため、今後は学校全体としてこうした取り組みをさらに根付かせていってほしいと期待している。

(意見・質問等)	・生徒同士が教え合う主体的な授業スタイルについて 一見すると何の教科か分からないほど独特な授業形態だが、よく見ると生徒が一生懸命に考え、生徒同士で教え合いながら進めていることが分かる。教える生徒と教わる生徒が入れ替わりながら活発に発言しており、マンネリ化のない非常に良い教育が実践されている。 ・自分の意見を出し合い議論する教育の意義について 従来の教育観からすると指導側の苦労も想像されるが、生徒自身が表に出て話し合いの場に加わり、ディベートなどを通じて自分の意見を表現する姿勢はとても素晴らしい。本校の大きな特徴として、改めて非常に価値のある教育だと感じた。
(意見・質問等)	・対話型の授業と「書く力・学力」の定着について 現行の学習指導要領や大学教育においても「主体的・対話的で深い学び」が重視されており、明確な課題を持って対話の場を設けることで授業は非常に活発になる。一方で、賑やかに話し合いができていても、いざ自分の考えを文章にまとめたり試験で記述したりすると書けないという課題が大学でも見られる。対話やグループ学習のプロセスを経て、最終的に一人ひとりの確かな学力へと還元していくことが重要であると感じた。

学校からの報告

◇広報活動報告

・新入生アンケートから見えた広報戦略について

今年度の 1 年生を対象に志望理由のアンケートを実施した結果、夏休みの「一日体験入学」が入学の決め手となった割合が非常に高いことが分かった。実際に来校してもらうことで本校の良さが伝わるため、新年度開始後の早い段階から文化祭や一日体験入学への参加を促す広報が必要である。また、夏休み以降に進路を迷う中学生に向け、9 月の探究発表会や平日・土曜の学校説明会への誘導も強化していく必要がある。

・中学校への出前授業と高校 3 年生の派遣について

中学校からの要請を受け、探究学習のアドバイスを行う出前授業などを実施している。今年度 9 月 11 日の富士中学校では、各クラス（6 クラス）に本校の 3 年生 6 名を派遣し、中学生の前で直接プレゼンテーションを行った。また、例年 2 月に各中学校で開催される中学 2 年生対象の説明会についても、今年度は家庭学習期間中の 3 年生を派遣し、本校での学びやその成果を生徒自身の言葉でプレゼンしてもらうことを計画している。

・県外校や大学生の視察受け入れ実績について

今年度は県外から 2 校の視察を受け入れたほか、今回初めて大正大学の学生の受け入れも実施した。

◇**令和８年度進路状況報告**

・3 年生の就職内定状況と求人実績について（11 月 5 日現在）

就職希望者 33 名のうち、26 名がすでに内定を得ており（未定 3 名、公務員試験の結果待ち 4 名）、テルモ、トヨタカローラ、旭化成など例年実績のある企業へ内定している。求人数は昨年度と同様に充実しており、指定校求人だけで延べ約 150 人分が集まっている。

・3 年生の進学状況（総合型選抜まで）について

総合型選抜の結果までで、国公立大学は山梨大学工学部に 2 名が合格した。そのほか、私立 4 年制大学に 60 名、短期大学に 4 名、専門学校に 31 名の合格が決まっている。

・今後の受験予定と一般選抜に向けた対策について

今週末から来週末にかけて学校推薦型選抜の試験がピークを迎えるため、その結果は次回報告する予定である。また、共通テストや国公立 2 次、私立一般選抜を本気で受験する生徒が 10 数名程度いるため、今後は自習室を開放するなどして受験対策を支援していく。

学校からの報告に対する質疑応答

(意見・質問等)	・他校との比較データの活用と PR について アンケート結果で「一日体験入学」や「学校説明会」が入学の決め手になっている割合が高いのは素晴らしい努力の成果である。偏差値や内申点といった従来の基準で選ばれる他校との違いを「見える化」して比較できるとさらに良いのではないか。
（回答）	・他校との比較と体験入学の特色について 他校の詳しい状況は把握できていないため次年度以降に情報収集を検討するが、以前のデータでは、早い段階から希望者が集まる他校と比べ、本校は「体験入学」をきっかけに志望者が急増する特徴が見られた。本校の体験入学は生徒が授業を行うなど独特な内容であるため、ホームページだけでなく実際に来校して良さを体感してもらうことが重要だと考えている。
(意見・質問等)	・高校生による中学校への出前授業の評価と詳細について 高校生が中学生に直接アドバイスする取り組みは非常に印象的で素晴らしい。富士中学校へ 6 名の生徒が訪問した際の 50 分間の具体的な説明内容や、それを見た中学 1 年生の反応・印象について教えてほしい。
（回答）	・富士中学校での実演内容と中学校側の反応について 50 分間の授業では、本校で取り組んでいる「市役所プラン」や探究学習を題材に、聞き手を引き付けるプレゼンテーションのコツを高校 3 年生が中学 1 年生の前で実際に実演・説明した。実施後、中学校の学年主任からは「高校生がここまで話せるとは思わなかった。市立高校ならこういう生徒に育つと実感した」との声が寄せられており、生徒の姿を直接見せることの大きな効果を感じている。

学校からの報告

◇各学科研修報告

総合探究科

・1 年生の集中研修（大学訪問・JICA 横浜）について

「学ぶ意欲の涵養」「英語によるコミュニケーション」「多文化共生」をキーワードに実施した。1 日目は産業能率大学でグループワーク、2 日目は桐蔭横浜大学で模擬講座や学生との交流を行い、3 日目は班別研修に加えて JICA 横浜と海外移住資料館を訪問し、移住した側の視点から国際交流や多文化共生を学んだ。全体の満足度は 97%と非常に好評だった。

・2 年生の集中研修（イングリッシュキャンプ）について

毎年恒例の JAC によるイングリッシュキャンプを校内で実施し、多様な国籍のメンター9 名とのコミュニケーション活動や日本文化の紹介、プレゼンテーションを行った。満足度は 100%で、英語や国際関係への関心を高めるきっかけとなっている。ここで作成したプレゼンをブラッシュアップし、今月末からの海外探究研修でのポスターセッションや訪問校での発表につなげる予定である。

・3 年生の集中研修（多文化共生プログラム）について

今年度初の企画として「多文化共生」をテーマに実施した。初日は富士市役所担当者による講演、2 日目は富士市国際交流ラウンジ（FILS）の関係者や元 ALT ら 6 名を招いた座談会、3 日目は在住外国人の視点で市内を歩くフィールドワークや関連施設の見学を行い、最終日にまとめのプレゼンを実施した。満足度は 99.2%と高評価だったが、初回ならではの課題や改善点も見つかったため、来年度に向けて工夫を重ねていく。

・海外探究研修（マレーシア）の行程について

11 月 28 日に成田のホテルへ現地集合し、翌 29 日にクアラルンプールへ移動する。現地では、イスラム系の高校（IISM）での文化交流や市内でのミッション活動、サンウェイ大学での講義受講・日本人留学生との交流、ホテルでのポスターセッション、マレー文化が色濃く残るカンポンバル地区での住民交流、班別研修などを予定しており、翌月曜の朝 7 時頃に日本へ帰着する行程となっている。

ビジネス探究科

・1 年生の集中研修（地域企業理解・大学訪問・企業見学）について

初日は富士商工会議所青年部によるお金に関する講演と、市内事業所を招いた座談会で地元企業への理解を深めた。2 日目は初の試みとして産業能率大学を訪問して大学生とグループワークを行い、大学生活の具体的なイメージを持つ有意義な機会となった。3 日目は伊藤忠食品の物流倉庫とカップヌードルミュージアム横浜を見学して授業での学びと結びつけたほか、宿泊時の自由食を通じて次年度の海外探究に向けた自主的な時間管理の下地を作った。

・2 年生の集中研修（空港研修・英語プログラム）について

JAL および羽田空港での研修では、整備や CA の訓練を間近で見学し貴重な学びを得た。また、今

年度から 2 日間の英語研修を新たに導入した結果、想定以上に多くの生徒が英語への前向きな意識変化を見せた。一方で、英語への苦手意識が強く十分な効果が得られなかった生徒も一部いたため、次年度は内容を精査して継続を検討していく。

・3 年生の集中研修（市内事業所インターンシップ）について

「働くとはどういうことか」をテーマに、3 日間で市内 34 の事業所にてインターンシップを実施した。振り返りアンケートではほとんどの項目で高い評価が得られており、3 年間の集中研修や海外探究研修を通じた自身の成長を実感する前向きな感想が多く寄せられた。

・海外探究研修（シンガポール）の行程について

移動時間の短縮を図るため、今年度はシンガポール 1 国で完結する行程を組んだ。11 月 28 日夕方に学校集合後、羽田発の深夜便で現地へ向かい、29 日は現地の家庭でのホームビジット文化体験や大学生との B&S プログラム、マリーナベイサンズのショー見学を行う。30 日はシンガポール国立大学でのグループワーク・英語プレゼン研修と班別研修、12 月 1 日は 3 年連続となる鹿島デベロップメントでの研修と班別研修を経て、深夜便で翌 2 日朝に日本へ帰着する予定である。

スポーツ探究科

・野外活動（集中研修）の実施状況と目的について

「スポーツ V」の授業として、普段できないスポーツや自然体験を通じて専門種目への気づきを得るとともに、日常生活への感謝や仲間との協働の大切さを学ぶことを目的に各学年で野外活動を実施している。1 年生は日帰りのカーリング研修を終え、来年 1 月 18 日から 2 泊 3 日で初の宿泊研修となるスキー実習を予定している。2 年生は富士宮での 2 泊 3 日のキャンプ実習で本栖湖の SUP 体験や林業体験（手作りフリスビー競技）、マスの掴み取りなどを行い、3 年生は 1 泊 2 日の富士登山で全員参加のもとご来光を見ることができた。

・野外活動の今後の課題（費用高騰への対応）について

16 年継続しているプログラムもあるが、昨今の物価高騰により、例えば富士登山の費用が 15 年前の約 2 倍になるなど実習費が上昇している。今後は保護者の費用負担を増やさない範囲の中でプログラムを工夫・ブラッシュアップし、教育目的を継続して達成していきたいと考えている。

・海外探究研修（香港）の行程と内容について

11 月 28 日に羽田へ集合し、29 日に香港へ出発、12 月 3 日に中部国際空港経由で帰着する。現地では、初日の夜景ショー周辺での文化体験、2 日目の太極拳体験や携帯アプリを活用した街中での自主的な発見型グループワークを行う。3 日目は昨年実施できなかった現地高校への訪問が直前で実現したため、授業見学やスポーツ交流を行い、4 日目は初の試みとしてオーシャンパークで 1 日環境プログラムに参加する予定である。

◇教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画

・計画策定の背景と現状の課題について

令和 7 年 6 月の改正給特法に基づき、教員の働き方改革を一層推進するため、本年 3 月に「業務量管理・健康確保措置実施計画」（計画期間：令和 8 年度～令和 11 年度）を策定した。令和 6 年度の同校の時間外在校等時間は令和元年度と比べて減少しているものの、年平均は月 33 時間であり、月 45 時間超が 31.7%、月 80 時間超が 5.3%となっている。

・計画における数値目標について

国の指針に合わせ、令和 11 年度までに 1 ヶ月の時間外在校等時間を平均 30 時間程度に削減すること、および月 45 時間以下の教職員の割合を 100%にすることを目標に設定した。また、ワークライフバランス向上のため、年間の年次有給休暇の平均取得日数を 16 日以上とする目標も掲げている。

・具体的な業務負担軽減と健康確保措置について

業務見直しの一環として、授業準備への AI 活用や事務職員による教材印刷等の補助、自動採点・成績管理システムの導入を進める。学校における措置としては、校務支援システムによる効率化に加え、過剰な苦情や不当要求から教員を守るため自動音声案内付きの録音機能付き電話機をすでに設置した。また、健康確保の取り組みとして、11 時間を目安とする勤務間インターバルの確保や、連続した年次有給休暇の取得促進を図る。

学校からの報告に対する質疑応答

(意見・質問等)	・インターンシップ受け入れ事業所側の評価・アンケートについて ビジネス探究科 3 年生のインターンシップについて、生徒側の満足度が高かったことは報告されたが、受け入れ先である市内 34 事業所側へのアンケート実施の有無や、生徒に対する評価・感想などがあれば教えてほしい。
（回答）	・インターンシップ受け入れ事業所側のアンケートの取り扱いについて 受け入れ事業所へのアンケートは富士商工会議所青年部が集約しており、次年度のインターンシップに向けた打ち合わせの際に、前年度の結果や感想として学校側へ共有される流れとなっている。
(意見・質問等)	・教員の時間外在校等時間の偏りと目標達成の実現可能性について 令和 6 年度の状況を見ると、年平均が月 33 時間であるのに対し、月 45 時間超の割合が 31.7%（約 3 分の 1）を占めており、一部の教員に業務が相当偏っているのではないか。月 80 時間超も 5.3%存在し割合表記のため実人数が分かりにくいが、こうした現状を踏まえると、目標として掲げられている「月 45 時間以下の教職員割合 100%」の達成は現実的にかなり難しいのではないかと感じる。目標達成の見通しや実現可能性について見解を伺いたい。

（回答）	・時間外勤務の偏りの要因と今後の削減に向けた取り組みについて 月 45 時間や 80 時間を超える時間外勤務は、部活動の指導や遠征を担当している教員にどうしても偏る傾向がある一方で、月平均 30 時間に全く及ばない教員もおり、業務量に差が生じている。熱心に指導する教員に対して部活動をやめるよう求めることは難しいため悩ましい課題ではあるが、部活動以外の授業準備やデスクワークの時間をいかに効率化し削減していくかという取り組みを地道に進めていくしかないと考えている。
(意見・質問等)	・３分類の補足資料はあるのか。 ・「保護者や地域の各種団体に対して協力を得られるような取り組み」について 具体的に考えていることはあるのか。
（回答）	・計画書内の「業務の 3 分類」の説明資料について 資料に記載されている「業務の 3 分類」は文部科学省が示す働き方改革の取り組み項目から抜粋したものだが、今回の資料にはその一覧表が添付されていなかったため、後日改めて資料を送付することとなった。 ・計画書 19 ページの「保護者や地域への周知・協力依頼」について 計画書第 5 項に「保護者や地域の各種団体に対して協力を得られるような取り組み（自治会等への周知）」とあるが、具体的な計画の有無を問われたのに対し、該当部分は文部科学省の雛形をそのまま使用したものであると説明された。現時点で自治会等への特別な周知は予定していないものの、地域代表として出席している委員の意見などを踏まえつつ、必要に応じて協力をお願いしていく方針が確認された。
(意見・質問等)	・集中研修および海外探究研修のプログラムへの評価について 小中学校における学校行事にあたる集中研修をまとまった期間で実施できることは、高校生にとって非常に貴重な機会である。また、各学科の海外探究研修も大人でさえ参加したくなるほど魅力的なプログラムが用意されており、生徒たちがどのような学びを得たのか大変興味深い内容となっている。 ・次回会議に向けた海外研修の成果報告への期待について 次回の会議の頃には海外探究研修も終了しているため、その際の生徒の様子や学びの成果についてもぜひ報告を聞かせてほしいと期待が寄せられた。
次回日程について ・１月下旬から２月上旬に開催予定です。	
閉会	